

甘長トウガラシ有望系統の育成

～収量が多く、尻腐れ果の発生が少ない、F1交配系統①-Kを選抜～

1. はじめに

甘長トウガラシ‘松の舞’は岩出市周辺で栽培され、ブランド名「ねごろ大唐」の名前で特産品化がすすめられている。しかし、‘松の舞’は夏季に果実の下部から黒く変色する尻腐れ果（図1）が多く発生し、生産拡大およびブランド化の障害となっている。そこで、農業試験場では尻腐れ果の発生が少ない、高品質な甘長トウガラシ系統を育成するため、2012年から甘長トウガラシ、ピーマンを親としたF1交配系統の作出を行った。その後、2015年まで選抜調査を実施し、36系統の中から4系統を選抜した。ここでは、2016年に実施した最終選抜結果について紹介する。

2. 材料および方法

2015年に選抜した①-K、①-L、①-N、②-Lの4系統（種子親：①伏見甘長、②万願寺とうがらし、花粉親：K 山西茄門、L R0039-1-1、N 緑光早生）と、対照品種‘松の舞’を用いた。2016年2月8日に播種し、4月15日に畝幅200cm、株間80cm、1条植えで定植した。仕立ては主枝4本仕立てとした。収量調査は5月27日から11月11日にかけて週2回行った。収穫した果実を、秀品（形状良好で曲がり2cm未満）、優品（秀品に次ぐもの）、クズ果（尻腐れ果、アントシアニンによる着色果、エビ果、その他（虫害等））にわけて果実の重量を測定した。

3. 結果

総収量および秀品収量は①-Kが最も多く、‘松の舞’と同等程度であった。尻腐れ果の発生は、いずれの系統においても‘松の舞’より少なかった（図2）。果実の形状は、①-K（図3）が最も優れていると考えられ、①-Lがそれに次いだ（観察）。

4. おわりに

交配系統①-Kの総収量および秀品収量は‘松の舞’と同等程度であり、尻腐れ果の発生は‘松の舞’より少なかった。果実の形状は、供試系統の中では①-Kが最も優れていることから、①-Kを最終選抜した。今後、食味なども含め、普及性を判断したい。

（栽培部 矢部泰弘）

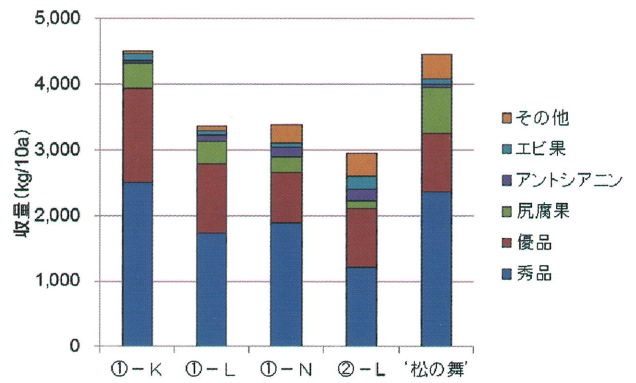


図2 収量および品質構成

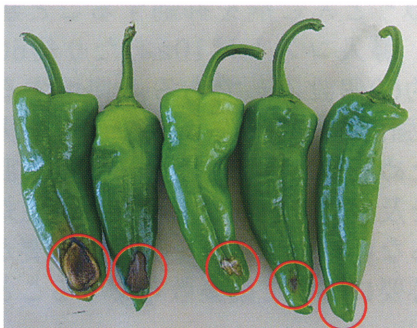


図1 尻腐れ果
注) 品種: ‘松の舞’ 尻腐れ、赤丸部分

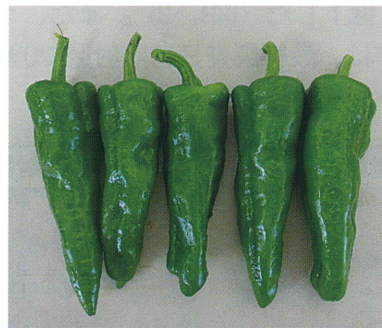


図3 交配系統①-K